

科目名	訪問介護員養成研修2級 介護概論 介護実技・実習
授業形態	講義・演習
開講時期	2年後期
時間数・単位	130時間 4単位

学習目標

- ①歯科医療において高齢者歯科や訪問歯科診療が多いため、高齢者に対する理解を深めるとともに介護の知識、技術を習得し高齢者への対応能力を養う
- ②介護や福祉に対する知識、心構え、職業倫理等を学ぶ
- ③基本介護技術演習において技術の基本を習得し要介護者の体験を通じて介護される側の理解を深める。更に訪問介護員の在り方や介護の在り方を学ぶ
- ④施設実習において講義と演習で学習した内容を現場実習で確認し、福祉について理解を深める

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	職務の理解	多様なサービスの理解	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる
2		介護職の仕事内容や働く現場の理解	
3-4	介護における尊厳の保持・自立支援	人権と尊厳を支える介護	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している
5		自立に向けた介護	
6	介護の基本	介護職の役割、専門性と多職種との連携	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に基づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している
		介護職の職業倫理	
7	介護における安全	介護における安全の確保とリスクマネジメント	①介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる
		介護職の安全	
8	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	介護保険制度	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる
9		医療との連携とリハビリテーション	
10		障害者自立支援制度およびその他制度	
11	介護におけるコミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーション	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められている事を認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している
12		介護におけるチームのコミュニケーション	
13	老化の理解	老化に伴うこととからだの変化と日常	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している
14		高齢者と健康	
15	認知症の理解	認知症を取り巻く状況	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している
		医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
16	認知症の理解	認知症に伴うこととからだの変化と日常	①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ②認知症の利用者への対応
		家族への支援	
17	障害の理解	障害の基礎的理解	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している
		障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎知識	
		家族の心理、かかり支援の理解	

回	授業題目	授業内容	到達目標	
18	介護の基本的な考え方	理論に基づく介護、法的根拠に基づく介護	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する	
19	介護に関するところのしくみの基礎的理解	学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、ところの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がところと与える影響		
20-21	介護に関するところのしくみの基礎的理解	人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ところとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点		
22-23	生活と家事	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援		
24-25	快適な居住環境整備と介護	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法		
26-27	整容に関連したところのしくみと自立に向けた介護	整容に関する基礎知識、整容の支援技術		
28-30	移動・移乗に関連したところのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援		
31	食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援		
32-34	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
35-36	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
37	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法		
38	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援		
39	介護過程の基礎的理解	介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ		
(39) 40-42	総合生活支援技術演習	生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得		
43	振り返り	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点		研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる
	就業への備えと研修終了後における継続的な研修	継続的に学ぶべきこと、研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介		

評価方法 筆記試験

参考図書等

- ・介護職員初任者研修課程テキスト1「介護・福祉サービスの理解」(日本医療企画)
- ・介護職員初任者研修課程テキスト2「コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解」(日本医療企画)
- ・介護職員初任者研修課程テキスト3「ところとからだのしくみと生活支援技術」(日本医療企画)

実務経験

科目名	行動科学
授業形態	講義
開講時期	2年後期・3年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	吉嶺 真一郎

学習目標 歯科医療の特殊性と患者の心理を学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	歯科治療の特殊性①	歯科治療	歯科治療とは何かを理解する
2	口腔機能と行動科学	臨床の本質と歯科衛生士の役割	かかりつけ衛生士としての患者対応を理解する
3	患者の心理	患者の来院目的、快適な生活、病気への恐怖感のある患者の対応、外観・審美・老化防止を望む患者への対応	様々な来院動機、QOLの意味、ペリオドンタルメディシン、顔面の美と口腔内の関係を理解する
4	歯科衛生士における歯科衛生士の役割	患者をいかに快適にさせるか	どうしたら快適に治療ができるかを理解する
5	歯科治療に対する恐怖の分類	歯科治療に対する恐怖の分類、恐怖を持つ患者の分類	歯科治療恐怖症を理解する
6	レーザー治療	レーザー治療によって、恐怖感はいくらだけ軽減するか	レーザーの機能理解する
7	歯科治療の特殊性②	インプラント治療時の患者の心理	かかりつけ衛生士としての患者対応を理解する
8	歯科治療の特殊性③	インプラント治療時の歯科衛生士の役割	かかりつけ衛生士としての患者対応を理解する

評価方法 レポート

参考図書等

・「患者を動かす 行動科学による歯科恐怖へのアプローチ」Ph.Weinstein他著(クインテッセンス出版)

実務経験

・本科目は、歯科医師として実務経験のある教員による授業である

科目名	音楽
授業形態	ピアノ伴奏によるボイストレーニング、合唱
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	八木 まゆみ

学習目標 音楽の授業を通して自己表現力や協調性・自主性を身につける

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	①発声②基本の姿勢③校歌を正しく歌う(合同)	発声の仕組みと、基本の姿勢。①校歌②上を向いて歩こうの合唱	発声の仕組みを知り、息の吸い方、口の開け方、基本姿勢を身につける。四部合唱のパート分け。ハーモニーを楽しむ
2	テンポやビートを感じながら歌う(合同)	①校歌②上を向いて歩こう③時間に余裕がある場合は翼をください、少年時代などに取り組む	混声合唱の楽しさとハーモニーを身につける。タップ&クラップ
3	①校歌を最後まで歌う②ハーモニーの美しさを知る	発声の基本と姿勢。①を歯科衛生士科②を歯科技工士科の学生にそれぞれ指揮してもらい、自分たちの力で合唱をする	パート別に分かれて練習したものをコーラスに仕上げることでハーモニーの美しさをより深く味わう
4	混声合唱の仕上げ	校歌を暗譜で歌えるようになる。①②の復習と発表	グループで発表したり、ハーモニーを正しく仕上げる緻密さを学ぶ。また全体の仕上げとして先生方の前で発表し、評価を得る
5	自分の声域を知る。	各自の声を聞きパート分をする	自分の声がどのようにどこからでているか体感し真の声域、声の音色を知った上でハーモニーを作る基礎を始める
6	女声合唱	③翼をください④少年時代⑤さくら草のメロディー・詩の味わい	①三部合唱のグループ分け ②女声三部合唱を通して混声合唱との違いをハーモニーの中で感じる。3曲の中から選曲する
7	三部合唱のハーモニー	前回の二曲の復習と口の開け方の確認を個別指導	音楽の流れに感情を上手く乗せて歌えるようになる。響きをより明確にする
8	詩とメロディーに気持ちを込める	パート別にハーモニーを安定させて、それぞれの曲の違いを歌い分ける。未来予想図、やさしさにつつまれたなら等も歌う	この回までに期間があくので、前回までの復習をしっかりとすすめる。もうひとつの目標として、お互いの声をききあう訓練をする
9	歌う時のより効率的な体の使い方	曲を通して、効率的な体の使い方や、よりよい発音・発声を耳で聞き、考えながら、より深く仕上げていく	それぞれの曲をハーモニーの中から、よりよく仕上げるために、考え、聞きながら仕上げる
10	発声と話し方の関連性	この回では、歌うことが話すことや、表情に大きく影響することを学び、前半の締めくくりをする	今までの曲を通して、歌うこと話すこととのつながりについて考え体感する。楽語の説明
11	基本発声の復習と～校歌・これまでの曲の中からの復習	試験で歌うグループ発表の曲を話し合う。グループ分けを決定する	前回までのことを復習し、パート別やグループ別に歌う
12	楽語の再確認と、表現	この回は復習した曲についてより深く「表現」について考える。試験曲発表。加えて、仰げば尊し、校歌、グループ別練習	強弱、楽語等を認識し、表現することにつなげる。復習と選曲の決定
13	試験に向けてポイントを確認	試験曲の発表と、実技、筆記のポイントを整理、確認する	グループ別の発表に向けて、発表曲の再確認と練習
14	試験実施①	グループ別発表、個人発表、筆記試験の実施をする	主に、筆記、個人発表をする。思い切り歌いきる
15	試験実施②	グループ別発表、個人発表、筆記試験の実施をする	総仕上げとして、グループで協力すること、自分自身の表現として発表すること。自信と礼節をもって発表し1年を締めくくる

評価方法 グループ発表、個別発表、筆記

参考図書等

・配布物プリント(楽譜)、CD鑑賞

実務経験

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	1年・2年・3年
時間数・単位	40時間 1単位(晶中先生の時間数と合わせて3年間での数字)
授業担当者	大迫 洋子

学習目標 バドミントンの愛好者として学生→社会人になっても体力づくりとして続けていき健康で長生きをめざす  
バドミントンの経験者はレベル強化を図り、専門学校体育大会参加を勧める  
講義や言葉つむぎを通して心をいつもリフレッシュにし、美しい女性を目指す

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1-2	楽しいバドミントン	ウォーミングアップとストレッチ/バドミントンにふさわしい足の運び方	全員楽しくフットワークが出来る/正しいラケットの握り方が全員出来る
3-4	楽しいバドミントン	基本ストローク練習(ドロップ・カットレシーブ・ハイクリアー・ドライブ・スマッシュ〜ブッシュ・審判とゲームの進め方・楽しいダブルスゲーム)	ストロークは奥が深いやさしい基本で強くなる 全員ローテーションを覚えられる
5-6	楽しいバドミントン	基本ストローク練習(ドロップ・カットレシーブ・ハイクリアー・ドライブ・スマッシュ〜ブッシュ・審判とゲームの進め方・楽しいダブルスゲーム)	ストロークは奥が深いやさしい基本で強くなる 全員ローテーションを覚えられる
7-8	ソフトバレー	ソフトバレーでチームワークと元気づくり(6人チーム)	ソフトバレーを通してチームワーク作りと体力づくりを行う
9-10	ソフトバレー	ソフトバレーでチームワークと元気づくり(6人チーム)	ソフトバレーを通してチームワーク作りと体力づくりを行う

評価方法 高校でのバドミントン部活の方々と、はじめてのラケットを握る方とは格差があるでしょう。初めの方は上手下手を言わない  
体力づくりと仲間づくり〜心のよりどころにして学業にも励みましよう

実務経験

科目名	体育
授業形態	講義・実技
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	40時間 1単位(大迫先生の時間数と合わせて3年間での数字)
授業担当者	晶中 和子

学習目標 自主的・積極的に運動習慣を身につける

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	現状の自分の体の状態	正しい姿勢、筋持久力、軟捷性、バランスを測定	正しい姿勢方法を把握し、運動の必要性を理解する
2	体力作り運動	ストレッチ→有酸素運動→筋トレ→リラクゼーション	正しい体の動かし方で楽に踊れる方法を習得する
3	寒い時期の運動方法①	手具を使ってのスポーツ競技	コアを意識する
4	寒い時期の運動方法②	サーキットトレーニング	効果的な脂肪燃焼の理解
5	スポーツ競技	体力測定①と理論の確認テスト	運動の楽しさとチームワークの大切さを身につける
6	運動の習慣化	*一人で出来るストレッチ・ウォーキング・筋トレ *体力測定②と理論	自主的に行う

評価方法 筆記と実技試験

参考図書等

・「らくらくストレッチ」小鹿有紀・宮尾昌明著(日東書院)

実務経験

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	2年前期
時間数・単位	40時間 1単位(大迫先生の時間数と合わせて3年間での数字)
授業担当者	晶中 和子

学習目標 安全な方法で体力作りをしよう

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	体力作り運動	ストレッチ→有酸素運動→筋トレ	運動方法の把握
		体組成の測定	1年時と比較
2	団体競技	手具を使ってスポーツ競技①	体力づくり運動
3	団体競技	手具を使ってスポーツ競技②	身近にある物を使って日常生活に運動を取り入れる

評価方法 出席状況、受講態度で評価

実務経験

科目名	体育
授業形態	講義・運動
開講時期	3年前期
時間数・単位	40時間 1単位(1年次20時間、2年次10時間、3年次10時間)
授業担当者	晶中 和子

学習目標 健康管理の方法について学ぶ

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	健康づくり・体力向上	ストレッチ・有酸素運動・コアトレ・リラクゼーション	生活習慣に運動の取り入れ方を学ぶ

評価方法 出席状況、受講態度で評価

実務経験